

APIR Now

5th Anniversary

APIRは今年、 設立5周年を迎えます！

2011年12月に設立されたAPIRは2016年、設立5周年を迎えます。
2016年はメモリアルイヤーとして記念事業を予定しています。
どうぞご期待ください！

表紙について

アジア太平洋地域を絵柄にしたジグソーパズルに
APIRと書かれた最後のピースをはめ込むと全体
が完成する—APIRの存在がアジア太平洋地域
の要となる—そんな思いを込めました。

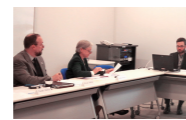
活動状況

□ は本文に関連記事を掲載。

2016年1月—3月

- 1月 5日 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館経済担当上級専門官 Johannes Schweizer 氏との意見交換会
- 1月13日 「交通網の整備・拡充に伴う交通近接性の改善と期待できる経済効果の予測」第3回研究会
- 1月18日 「関西の女性就業率の拡大に向けた提言」第6回研究会
- 1月18日 「COP21結果報告会」(関西経済連合会との共催)
- 1月19日 「ひらかた地域産業クラスター研究会」で稲田義久センター長が「アジア太平洋と関西 世界経済の行方と関西経済白書2015」と題して講演
- 1月22日 関西労働研究会
- 1月27日 近畿経済産業局「平成27年度サービス産業事業者の生産性向上に係る課題及び解決事例調査」第1回検討会に木下祐輔研究員が委員として出席
- 2月4日～5日 第54回関西財界セミナーに宮原秀夫所長、林敏彦研究員、稲田義久センター長が参加
- 2月17日 在日米大使館 経済・科学担当公使 Jessica Webster氏との意見交換会
- 2月18日 「交通網の整備・拡充に伴う交通近接性の改善と期待できる経済効果の予測」第4回研究会
- 2月23日 「関西独自の景気指標の開発と積極的な活用」第4回研究会
- 2月24日 「第107回景気分析と予測」、「Kansai Economic Insight Quarterly No.29」記者発表
- 2月24日 「メディカルジャパン2016大阪」で稲田義久センター長、山下かおり総括調査役、木下祐輔研究員が発表
- 2月26日 関西労働研究会
- 3月 1日 APIRセミナー「商都大阪をつくった男 五代友厚〜その事蹟と現代的意義〜」
- 3月 4日 シンポジウム「地域における大学のあり方〜大学を起点に人の流れを変え、地域の発展に貢献する〜」(関西経済連合会との共催)
- 3月11日 ドイツ国会議員団との意見交換会
- 3月11日 オープン研究会「日本における持続可能性のある貿易志向型農業の展望」
- 3月14日 近畿経済産業局「平成27年度サービス産業事業者の生産性向上に係る課題及び解決事例調査」第2回検討会に木下祐輔研究員が委員として出席
- 3月15日 APIRフォーラム「関西の女性就業率向上に向けた提言〜女性は関西で夢を描けるか? 鉄は熱いうちに打て〜」
- 3月23日 オープン研究会「高度外国人材受入促進のための実践的研究」

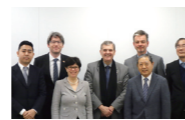
- 3月24日 研究報告会“Challenges Regarding Post Disaster Reconstruction after Typhoon Haiyan”
- 3月25日 関西労働研究会
- 3月28日 平成27年度 通常理事会



▶ 2月17日
在日米大使館
経済・科学担当公使
Jessica Webster
氏との意見交換会



▶ 1月5日
大阪・神戸ドイツ
連邦共和国総領事館
経済担当上級専門
官 Johannes Schweizer
氏との意見交換会



▶ 3月11日
ドイツ国会議員団との
意見交換会

インサイト

詳細はホームページへ。

- 【APIR Commentary】
- 12月18日 No.54 “The Yabu Special Zone: An incipient model for agricultural reform and rural revitalization” James Brady (前号に掲載もれがありましたので今号に掲載いたします)
- 1月22日 No.55 「韓国次期大統領選挙: 潘基文国連事務総長への待望論」金 賢九
- 2月 8日 No.56 「台湾政治・経済構造の『大転換』—蔡英文『親海遠陸』政権の誕生」陳 永峰氏(台湾・東海大学日本地域研究センター長)
- 3月28日 No.57 「韓国の第20代国会議員総選挙の展望」金 賢九
- 【APIR Trend Watch】
- 1月27日 No.35 「COP21 バリ協定とその評価」有馬 純氏(APIR上席研究員/東京大学教授)
- 【APIR Discussion Paper Series】
- 2月 1日 No.41 「地域DSGEモデルの応用可能性: 家計の異質性を考慮して」井田大輔氏(桃山学院大学准教授)、松林洋一氏(神戸大学教授)
- 3月14日 No.42 「地域四半期GDPの推計に向けた諸課題」岡野光洋氏(APIR副主任研究員/大阪学院大学講師)、稲田義久

編集後記

今号の巻頭特集は研究員座談会です。私の興味は二人の外国人研究員が「日本を選んだ理由」。二人にたずねてみました。

アイルランド出身のBrady研究員は「学生時代、日本のバラエティ番組を見て日本人は騒がしいと思っていましたが、その後に出会った日本人留学生の印象は全く違いました。それで日本に興味を持ちました」。ベトナム出身のCao研究員は「子供の頃に読んだ『日本人』という本の中に『ハンカチ』という小説がありました。ある母親が子を亡くしたことを淡々と話しているが、ハン

カチを持つ手は激しく震えていた、という内容でした。他人に配慮して自分の感情を抑制できる日本人をすごいと思いました」(調べてみたら、この小説は芥川龍之介の『手巾』でした)。

二人の話に共通するのは「静かで強い日本人」ということでしょうか。それは東日本大震災の後、先を争うことなく配給の列に並んで世界の賞賛を受けた日本人の姿に通じるかもしれません。日本人の何が世界に感銘を与えているのかを、改めて教えられたように思います。(真鍋)

APIR Now No.7/2016年4月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長: 井上礼之
(ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)
理事・所長: 宮原秀夫(元 大阪大学総長)
代表理事: 榎原則之
研究統括: 林 敏彦(大阪大学名誉教授)
数量経済分析センター センター長: 稲田義久(甲南大学副学長)
アドバイザー: 猪木武徳(青山学院大学特任教授)/鷲田清一(京都市立芸術大学 理事長・学長)

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階
TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ推進部) FAX 06-6485-7689
E-mail contact@apir.or.jp ホームページ http://www.apir.or.jp



【発行】一般財団法人 アジア太平洋研究所
発行人: 榎原則之
編集担当: 岡田直樹・真鍋 綾 (アウトリーチ推進部)

本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまで
お寄せ下さい。
本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ホームページよりどうぞ!



平成28年度事業計画特集

アジア太平洋地域の 要をめぐらして

研究員座談会

APIRは
ドリーム・シンクタンク
—APIRという「場」が研究員を育てる

Research Project

平成28年度 事業計画

Economic Forecast

日本経済一牽引力不足の脆弱な回復
関西経済一足踏み状態から後退気配、
先行きに警戒感強まる

Topics

- 研究員だより—Brady研究員が博士号取得
- 「うめきた研究会2015レポート」を刊行
- 多彩な活動でプレゼンスアップ、
会員限定セミナーも開催

information

APIR

APIRはドリーム・シンクタンク

—APIRという「場」が研究員を育てる

APIRには4名の研究員がいます。国籍もキャリアも様々な研究員たち。なぜ研究者という道を志したのか、そしてAPIRで研究する意義は？数量経済分析センターの稲田義久センター長がききました。

〈座談会メンバー〉 研究員 James Brady(アイルランド)／林 万平(日本)／木下祐輔(日本)／Cao Thi Khanh Nguyet(ベトナム)
 〈きき手〉 数量経済分析センター センター長 稲田義久

「なぜ？」から始まった研究者への道

稲田：まず、皆さんが研究者を志した理由をきかせてください。



林 万平

林：大学卒業後IT企業に就職しましたが、当時は不況で若者の長期展望が崩壊し始めた頃でした。

日本社会が初めて直面する情勢を肌身で感じ、「物事を探求してみたい」と思うように。労働市場の研究から始めましたが、神戸出身ということもあり災害研究に携わるようになりました。

木下：移り変わりの激しい社会の動きに興味を持ち、経済学を専攻しました。「経済学を使って仕事がしたい」と銀行系シンクタンクに就職しましたが、ここでは行政や企業からの委託研究が主で、面白くはありましたが研究項目や研究背景が決まっていた。私はもっと調査の前提となる研究背景から突き詰めたと思うようになり、研究者を志望しました。

Cao：子供の頃読んだ本がきっかけで日本人に興味を持つようになり、大学卒業後、大学の日本語教員になりました。

またベトナムでは国営企業は何かと優遇されますが中小企業は厳しい。熱意のある企業でも資金繰りがうまく行かず倒産する例を見てきました。そこを「おかしい」と思い、経済を研究しようと思いました。

Brady：学生時代に日本人の友人がいて、日本という国に興味を持つようになりました。高校の外国語指導助手(ALT)として来日しましたが、もっと日本社会を理解したい、それには日本の象徴の一つであるコメ、つまり農業を知ることだと思うようになりました。そこから農業政策に興味を持ち、研究者の道に進みました。

APIRには個人や大学では味わえないダイナミズムがある

稲田：理由は様々ですね。それでは、いまAPIRで研究をしていて、感じていることは何ですか？



木下祐輔

木下：ものの見方、捉え方が変わりました。APIRでは様々な国の研究者と接しますが、そう

すると相対的に日本が見えてきます。研究には客観的な視点が必要だと感じるようになりました。

またAPIRでは研究だけでなく政策提言を行えることが大きいと思います。それはAPIRには様々な業種の企業出



▶左から 木下祐輔 / Cao Thi Khanh Nguyet / 林 万平 / James Brady

向者がいるから。ビジネスの現場で起こっていることを把握でき、地に足の着いた政策提言に結びつけられます。

Cao：APIRではその分野のトップを走る研究者に直接指導を仰げます。私のような新米研究員にとっては「ドリーム・シンクタンク」です。そして自分のやりたい研究ができ、しかもそれを外部に発信するチャンスがあります。

Brady：私は昨年東京で農業政策に

ついて第一人者の有識者にインタビューしましたが、これはAPIRのネットワークによって実現したものです。



James Brady

またAPIRにはアカデミックな人材、ビジネスマンはもちろん外交官やメディア関係者も訪れるなど、出入りする人材の幅が本当に広いと感じます。

林：様々な国の研究者が出入りして日常的に英語が飛び交う環境で、英語に慣れることができました。また企業出向者と東北で震災の現地調査を行うなど、APIRでは様々な出会いがあります。

それから大阪の玄関口・グランフロント大阪にあることが大きなメリットです。

行系のシンクタンク時代、「π字型の研究員を目指せ」とよく言われました。足が2本あるπの字のように、自分の専門以外にもう一つ分野を持つということ。APIRにはそんな研究員が育つ土壌があるので、思ったことは何でも相談すればOKだと伝えたいですね。

Cao：私は、失敗は一つの価値だとお伝えしたいです。私自身、研究過程で何度もダメ出しされ、失敗してきました。でも、それがあったから今の私があります。あきらめず、最後までファイトしてください。



Cao Thi Khanh Nguyet

林：自分が変わることを恐れないでほしい。2年前タイの洪水調査を行ったとき、専門領域ではない政治学の論文を大量に読むなど悪戦苦闘しましたが、これによって自分の関心事が変わったという経験があります。研究員人生では思わぬことが起こりますが、それを楽しんでほしい。その道りが自分を専門家へと近づけてくれます。

Brady：伝えたい一言は“no limit”(制限なし)。APIRのネットワークとサポートを活用して、海を超えたインパクトのある研究をしてください。たとえば私は『アジア太平洋と関西』の英訳もしていますが、これはAPIRの国際的なアピールにつながると感じています。

「新年度、私はこれでいきます」

稲田：最後に、新年度の皆さんの研究計画を教えてください。

林：災害復興の総合政策的研究が私のテーマ。想定外の災害が起こったとき人々がどう立ち上がっていくか、そこにドラマがあります。メッセージ性のある研究成果を出したいですね。

木下：人口問題と医療経済が私の専門。関西は全国より早く高齢化が進む中、医療費や介護費負担はどうあるべきか、また病気による労働生産性の減少にも注目していきます。Jamesが国際的な価値向上に貢献するなら、私は関西を中心とした官民への貢献を担いたいと思います。

Cao：ASEAN諸国の金融システムに関する研究です。特にASEAN経済共同体の金融システムが、カンボジア、ミャンマーなどの後発国にどんな影響を与えるかに興味を持っています。また、ベトナムと同様、移行期経済を経験した中国との比較研究も実施したいと思います。

Brady：日本の農業システムをもっと安定させる研究を進めます。日本の農産物は高価格で国際競争力が低いと言われますが、都市のインフラとして考えれば、環境にやさしい安定的な農業ができると考えています。そんな持続可能な農業が実現すれば、日本の農産物は決して高くないと思います。

稲田：ありがとうございました。

APIRには研究員4名の他に、6カ国7名のインターンがいます。研究所の中にも外にも異文化と接する機会が常にあり、それが皆さんを研究者として成長させている、つまりAPIRという「場」そのものが皆さんを成長させているのだと改めて感じました。



稲田義久

平成28年度 事業計画

— 設立5周年を迎え、新たなステージへ —

APIRの理念

アジア太平洋地域における、国・地域の枠を超えた、「知」の協働、「情報」の交流を創出する磁場をめざします。

APIRのミッション

アジア太平洋地域が直面している諸問題に対して、課題解決型シンクタンクとして多様な知的貢献活動を展開し、日本とアジア太平洋地域の新たな活力創出、持続的な発展に寄与します。

APIRの研究内容 ~3つをバランスよく~

- ①政策立案やビジネス戦略策定に際して、理論的・実証的な裏付けを与える研究
- ②将来に向けた予測、課題提起、政策提言のための事前蓄積となる研究
- ③研究成果やデータが、公共財や研究インフラとなる研究

これらの研究成果をもとに、経済界・行政・学界それぞれに対して、現実に活用できる提言や情報提供を、時機を捉えて実施します。また、地域の将来を担う有為な人材を、研究活動を通して育成します。

平成28年度の「研究の3本柱」

アジア太平洋地域の経済統合の中、グローバル化の進展や関西における高齢化等の現状認識を踏まえ、3つの柱を設定し研究活動に取り組みます。



1 アジア太平洋地域の経済的ダイナミズムと今後の行方

中国の急速な台頭、AEC(アセアン経済共同体)の発足、新興国の景気減速による世界経済見通しの不透明さなど、日本とアジア太平洋諸国との経済関係が複雑さを増す中、今後取り組むべき対応や進むべき道筋の示唆を与える。

- 1 環太平洋経済連携協定(TPP)と東アジア経済統合
- 2 アジアの成長に資する開発金融
- 3 中所得国の新展開
- 4 アジアの知日産業人材との戦略的ネットワーク構築
- 5 災害復興の総合政策的研究
- 6 国際経済統合とベトナムの銀行部門・健全なシステムへの道



リサーチリーダー/上席研究員
木村 福成氏 (慶應義塾大学 教授)



リサーチリーダー/上席研究員
岩本 武和氏 (京都大学 教授)



リサーチリーダー/主席研究員
後藤 健太氏 (関西大学 教授)



リサーチリーダー/上席研究員
大野 泉氏 (政策研究大学院大学 教授)



リサーチリーダー
林 万平 (APIR研究員)



リサーチリーダー
Cao Thi Khanh Nguyet (APIR研究員)

2 人口減少下における関西の成長戦略

高齢化率が高く女性の就業率が低い関西。一方、インバウンドツーリズムは好調だが宿泊インフラ整備の必要性も指摘されている。このような問題意識の下、関西の成長産業として期待される重点分野を中心に調査研究を行い、関西経済の活性化、新たな成長軌道に乗せるための問題提起や戦略策定に役立てる。

- 7 関西における健康投資の経済評価
- 8 ツーリズム先進地域関西をめざして
- 9 都市インフラとしての食糧供給システム
- 10 関西の女性就業率の拡大に向けた提言
— 関西各府県の違いに注目した対応策提案
- 11 関西の大学のあり方
- 12 都市におけるIoTの活用
- 13 大阪におけるTPP本部創設の必要性・可能性についての学際的共同研究



リサーチリーダー
稲田 義久 (APIRセンター長)



リサーチリーダー/上席研究員
小林 傳司氏 (大阪大学 副学長)



リサーチリーダー
木下 祐輔 (APIR研究員)



リサーチリーダー
James Brady (APIR研究員)



リサーチリーダー/上席研究員
下條 真司氏 (大阪大学 教授)



リサーチリーダー
林 敏彦 (APIR研究統括)



リサーチリーダー/主席研究員
前田 正子氏 (甲南大学 教授)



リサーチリーダー/主席研究員
Robert D. Eldridge氏 (エルドリッチ研究所)

3 経済予測・分析、及びシミュレーション

APIR独自の予測・分析手法やデータベースの蓄積・活用による時宜に合った経済予測情報の提供、および独自応用分析モデルの駆使等により、自治体や経済界が抱える諸問題の解決に貢献する。

- 14 経済フォーカスト(DB構築含む)
- 15 関西独自の景気指標の開発と応用
- 16 交通インフラ整備の経済インパクト分析
- 17 世界経済超長期予測 2016年版



リサーチリーダー
稲田 義久 (APIRセンター長)



リサーチリーダー/主席研究員
後藤 孝夫氏 (近畿大学 教授)



リサーチリーダー/主席研究員
豊原 法彦氏 (関西学院大学 教授)



リサーチリーダー
林 敏彦 (APIR研究統括)

その他

上記以外の分野や、社会情勢の変化に応じた機動的対応も含め、研究調査等を適宜設定し実施する。

- 18 エネルギーミックス構築、地球温暖化目標達成に向けた対応

主な関連事業のご紹介

- ・『アジア太平洋と関西』の刊行
- ・設立5周年記念シンポジウムの開催
- ・事業報告会(兼『アジア太平洋と関西』発表会)の開催
- ・APIRフォーラムの開催
- ・政策提言「APIR Policy Brief」の発行

第107回 景気分析と予測/Kansai Economic Insight Quarterly No.29

日本経済 ▶▶ 牽引力不足の脆弱な回復
関西経済 ▶▶ 足踏み状態から後退気配、先行きに警戒感強まる

APIR内の研究ユニット、数量経済分析センター(センター長: 稲田義久 甲南大学副学長)では、日本経済・関西経済の予測と分析を定期的に行っています。

2016年2月24日発表のAPIRの予測は以下の通り。

(単位%)	2015年度	2016年度	2017年度
全国GDP	0.6	1.1	0.0
関西GRP	0.4	1.4	-0.3

前回(11月26日)の発表から、全国GDP 15年度を0.2%ポイント、16年度を0.4%ポイントいずれも下方修正、17年度は0.2%ポイント上方修正した。

また、関西GRP 15年度を0.2%ポイント、16年度0.5%ポイント、17年度0.2%ポイントのいずれも下方修正。民需は前回予測と大きく変わらないが、外需の伸びを大幅に下方修正したことによる。

詳細はこちら 経済予測: Quarterly Report (日本) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-ja/>
経済予測: Quarterly Report (関西) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-kansai/>

関西の2015年の賃金

関西の2015年の賃金は伸び悩んだ。その要因として、相対的に給与の低い非正規やパートタイム労働者比率の上昇、生産調整による所定外給与減少、夏季賞与支給額減少による特別給与減少の3つがある。また、春闘が企業側に配慮した形で交渉が進んでいること、世界経済の減速による生産調整が続くことなどから、関西の賃金は2016年も引き続き伸び悩むとみられる。

TOPICS

TOPIC 1 **「研究員だより」 Brady研究員が博士号取得**

アイルランド出身のJames Brady研究員が博士号を取得しました。詳細は以下のとおりです。

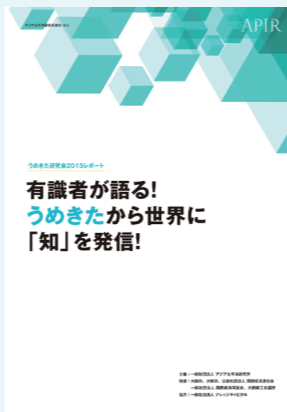
- ①大阪大学大学院国際公共政策研究科博士課程(博士号(国際公共政策))
- ②論題「日本の農業政策における政治経済の新たな視点—観念的アプローチ—」
- ③取得日: 2015年12月24日



※Brady研究員は、1~2ページの「研究員座談会」にも登場しています。

TOPIC 2 『うめきた研究会 2015レポート』を刊行

「うめきた研究会」はうめきた開発を市民・利用者の視点から検討することを目的に、産官学の専門家を招いて2014・2015年度に開催した公開の研究会です。このたび、2015年度の4回の研究会をまとめたレポートを刊行しました(役職は開催当時)。



1. 「新・観光立国とうめきた」 David Atkinson 氏 (株式会社小西美術工芸社 代表取締役社長)
2. 「次世代産業育成とうめきた」 谷井 等 氏 (シナジーマーケティング株式会社 代表取締役社長兼CEO)
3. 「新しい学びのかたちとうめきた」 鈴木 寛 氏 (東京大学・慶應義塾大学教授/文部科学大臣補佐官)
4. 「新世代都市とうめきた」 下條 真司 氏 (大阪大学サイバーメディアセンター 教授・センター長/情報通信研究機構テストベッド研究開発推進センター センター長) 林 敏彦 (APIR研究統括)

TOPIC 3

多彩な活動でプレゼンスアップ、会員限定セミナーも開催

APIRは1~3月、多彩な活動を行いプレゼンスアップに努めました。また、会員企業の皆様への情報提供の場として会員限定の「APIRセミナー」を開催しました(役職名は開催当時)。

COP21結果報告会を開催

~関西連との共催で、より多くの参加者に情報発信~

2015年パリ協定の内容、交渉の裏側、今後の日本の方向性や産業界への影響・期待等について講演・報告を行いました。



- 開催日: 1月18日 ■会場: グランフロント大阪 ■主催: APIR、公益社団法人関西経済連合会 ■参加者: 132名
- 次 第: 挨拶 佐藤廣士氏(関西連副会長/神戸製鋼所会長)
- 講演「COP21の結果と今後の課題」田尻貴裕氏(経済産業省産業技術環境局環境政策課地球環境対策室室長)
- 「COP21の結果と日本の戦略」有馬 純氏(東京大学公共政策大学院教授、APIR上席研究員)
- 報告「関西連COP21参加訪問団 報告」古川 実氏(関西連地球環境・エネルギー委員会委員長/日立造船会長兼CEO)

第54回 関西財界セミナーに参加

~独自の提言と試算でAPIRならではの存在感を示す~

2月4~5日、第54回関西財界セミナーに宮原秀夫所長、林 敏彦研究統括、稲田義久センター長が参加しました。

元 大阪大学総長の宮原所長は、アルバイトに忙殺される留学生の現状を述べ、関西企業合同による留学生支援ファンド

の設立を提言。林研究統括は、関西で健康・医療産業の振興を進めた場合の市場規模の試算、稲田センター長はリニア中央新幹線大阪開業遅延の場合の影響額の試算等に関して発言し、APIRならではの存在感を示しました。



宮原所長



林 研究統括



稲田センター長



林 研究統括

宮本又郎氏

APIRセミナー

「商都大阪をつくった男 五代友厚 ~その事蹟と現代的意義~」を開催

~会員限定セミナーで日頃のご支援に感謝~

NHK朝の連続ドラマ『あさが来た』の時代考証を担当された大阪大学名誉教授で大阪企業家ミュージアム館長の宮本又郎氏を講師に迎え、モデレーターを林 敏彦研究統括が務めました。宮本名誉教授と林研究統括は大阪大学経済学部で長く学究生活を共にした間柄から今回のセミナーが実現しました。

- 開催日: 3月1日
- 会場: グランフロント大阪
- 参加者: 32名

2015年度研究プロジェクトの成果報告会をいち早く開催

2015年度の自主研究プロジェクトの成果をいち早く発信して内外に有益な情報を提供するため、年度内に以下の成果報告会を開催しました。

- 1 3月4日/シンポジウム「地域における大学のあり方~大学を起点に人の流れを変え、地域の発展に貢献する~」(関西経済連合会との共催)
関西連との共同研究の成果報告会です。担当は矢野ひとみ調査役です。
- 2 3月11日/オープン研究会「日本における持続可能性のある貿易志向型農業の展望」
担当はJames Brady研究員です。講師にキヤノングローバル戦略研究所研究主幹の山下一仁氏をお迎えしました。
- 3 3月15日/APIRフォーラム「関西の女性就業率向上に向けた提言~女性は関西で夢を描けるか?鉄は熱いうちに打て~」
担当は矢野ひとみ調査役です。モデレーター、パネリストは全員女性が務めました。
- 4 3月23日/オープン研究会「高度外国人材受入促進のための実践的研究」
担当は山下かおり総括調査役です。
- 5 3月24日/研究報告会「Challenges Regarding Post Disaster Reconstruction after Typhoon Haiyan」
担当は林 万平研究員です。フィリピン大学からパネリストをお招きし、インターンのJose O. Tiu Sonco II(フィリピン)、Mizan B. F. Bisri(インドネシア)も参加しました。

